

韓国語 I

担当教員 李 ヒョンジョン

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 企シ・日文・社文1年（月・木3校時）、全学科(人間福祉優先)1年（月・木6校時）

【授業のねらい】

初めて韓国語に接する学習者を対象に、文字の仕組みや発音の仕方などをしっかり抑えることで、韓国語能力の基礎作りを図ります。また、学習した文字を応用して、日常的な会話表現を身につけると同時に、韓国という社会や生活文化などにも接することで、ことばと文化を結ぶ韓国語授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、あいさつ練習、ニーズ調査
2	基礎・第1～2課：韓国語の文字の仕組みと基本母音
3	基礎・第3課①：平音と発音練習
4	基礎・第3課②：激音と濃音の発音練習
5	基礎・第4課：複合母音の仕組みと発音練習
6	基礎・第5課：終声(パッチム)の仕組みと発音練習
7	基礎・第6課：発音の変化 / 韓国映画を楽しもう！
8	第1課：名詞文①「～は～です」
9	第2課：名詞文②「～は～ですか」
10	第3課：名詞文の否定表現「～ではありません」、指示詞「こ・そ・あ・ど」の活用
11	第4課：存在の「あります(います)/ありません(いません)」表現
12	第5課：用言文の丁寧表現①「します/しますか」の表現
13	第6課：用言文の丁寧表現②「します/しますか」のよりカジュアルな表現
14	用言文の活用、名詞文と用言文における丁寧表現の比較
15	作文練習と総復習 16週目に期末試験およびフィードバックを行う。
16	

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(25%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上(8回)欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座(初級)』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語 I

担当教員 長嶺 聖子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米・産情1年（月・木3校時）、日文・英米・社文・人福2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

初めて韓国語を学習する人でも楽しめる「話せる韓国語」を心掛けます。文法解釈はテキストを使用して韓国語と日本語の文法に関する多くの共通点や相違点を見分け、確実に韓国の文字「ハングル」の「読み」、「書き」が習得できるように練習します。

さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、韓国の文字「ハングル」を読めるようにすることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容	
1	基礎・第1課：「ハングル」の成り立ち	会話：簡単な自己紹介
2	DVD：韓国の首都「ソウル」	会話：さようなら
3	基礎・第2課：母音字の書き方と発音	会話：はい、どうぞ
4	基礎・第3課：子音字の書き方と発音	会話：～と言います
5	基礎・第4課：複合母音	会話：民族衣装について
6	基礎・第5課：末音字(パッチム)の発音	会話：韓国の名前について
7	基礎・第6課：発音の変化	会話：先生の日
8	日本語の「ハングル」表記表	会話：単語カルタ
9	第1課：文の構造	会話：韓国TVの歌番組
10	第2課：助詞	会話：パソコンで文字入力
11	第3課：疑問文／否定文	会話：レストランで
12	第4課：存在詞	会話：ショッピング
13	第5課：丁寧形語尾（～です／ます）	会話：テコンドDVD
14	第6課：疑問詞	会話：韓国映画
15	総まとめ	16回目：期末試験
16		

【履修上の注意事項】

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。授業は段階的に構成されているので、出来るだけ遅刻・欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(20%)、学期末試験(50%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します

韓国語 I

担当教員 天久 恵珍

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行1年次（月・木4校時）、経済・環政・日文・1年（月・木3校時）

【授業のねらい】

一番近い国の言葉として簡単な自己紹介、基本的な挨拶が出来るようにします。また、韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習します。それとともにテキストを使用して「文法」、「語彙力」、「読解力」も習得できるよう心掛けます。さらに、メディア、インターネットを通して韓国の最新情報やニュースを紹介しながら、生活習慣、文化に関して伝えていきます

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎1：ハングルと韓国の紹介&沖縄と韓国の関係など
2	基礎2：基本母音について
3	基礎3：基本子音と二重子音について（ひらがなとハングルの比べ）
4	基礎4：複合母音について（日本語のハングル表記について）
5	基礎5：パッチム（終声）について
6	基礎6：発音の変化及び総合発音の小テスト
7	第1課：「～は」、「～です」について
8	第2課：「～が」、「～ですか」について
9	第3課：「～ではありません」について
10	韓国映画と歌（大衆文化）と小テスト
11	第4課：「あります・います」について
12	第5課：「します」のニダ体について
13	第6課：「します」のヨ体について
14	総合応用について（自己紹介）
15	前期講座のまとめ。 16回：期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- * 初日の出席は必須条件です。出席しなければ登録は取り消される可能性があります。
- * 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率（25%）、授業への参加姿勢（5%）、期末試験（50%）、小テスト&課題（20%）とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座 ・初級」（国書刊行会、2,100円 + 税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語 I

担当教員 宋 ミンジョン

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 人福1年（月・木4校時）、法律・地行・経済・環政・企シ・産情2年（月・木5校時）

【授業のねらい】

韓国語 I は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、基本的な文の構造の理解及び挨拶、自己紹介など簡単な会話ができることを目標とする。

音に慣れることから始め、文字と発音を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習と読む練習を繰り返す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・文字（ハングル）の仕組み（基礎・第1課）
2	基本母音（基礎・第2課）
3	基本子音（基礎・第3課）
4	複合母音（基礎・第4課）
5	パッチム（基礎・第5課）
6	発音の変化（基礎・第6課）
7	韓国映画と歌
8	第1課 名詞文（挨拶と自己紹介）
9	第2課 名詞文の疑問形
10	第3課 名詞文の否定形・指示詞
11	第4課 存在詞の丁寧語尾
12	第5課 用言文の丁寧表現①
13	第6課 用言文の丁寧表現②
14	小テスト
15	前期のまとめ・試験前の質問タイム
16	16 期末試験

【履修上の注意事項】

- 1 登録前に必ず指定学科と年次を確認し、その指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。（減点対象になるので注意）
- 4 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験（50%） / 出席（25%） / 小テスト・課題（20%） / 授業態度（5%）

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 長嶺 聖子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米・産情1年（月・木3校時）、日文・英米・社文・人福2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

この講義は、韓国語と日本語の語順がほぼ同じであるというメリットを活かし、「読む」ことを楽しむ形式で進めると同時に、日常生活を中心とした会話学習を通して「会話」の幅を広げます。さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し韓国の文化や現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、「ハングル」の文を読めるようにし、話し相手に合う言い方を覚えることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容	
1	第7課：丁寧な語尾練習	会話：～と申します
2	ビデオ：「韓国留学150日」	会話：お久しぶりです
3	第8課：丁寧な語尾練習	会話：誕生日の歌
4	メニュー読み	会話：レストランで
5	第9課：漢数詞	会話：誕生日
6	単語カード読み	会話：韓国語で～といいます
7	第10課：固有数詞	会話：歌
8	助数詞（単位）	会話：電話番号
9	第11課：尊敬語の語尾	会話：敬語の使い方
10	丁寧な命令文	会話：韓国のドラマ
11	第12課：連結語尾（条件）	会話：DVD「ソウルの名所」
12	第13課：過去形	会話：韓国のセンター試験
13	過去形の練習：プリント	会話：韓国のお正月
14	第14課：勧誘形	会話：韓国映画
15	総まとめ	16回目：期末試験
16		

【履修上の注意事項】

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。授業は段階的に構成されているので、出来るだけ遅刻・欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(20%)、学期末試験(50%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 天久 恵珍

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行1年次（月・木4校時）、経済・環政・日文・1年（月・木3校時）

【授業のねらい】

韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習しながら、前期の文法を会話に応用し、「丁寧体」、「尊敬体」をできるようにします。また、韓国学生の最新情報や考え方も前期と同様にメディア、インターネットを通して紹介するよう心掛けます。さらに、テキストの「文法」、「読解力」も理解し、独自の応用が出来るようにします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第7課：「～です・ます」の体について
2	第8課：「～です・ます」の体について
3	第8課：「～です・ます」の体のまとめ
4	第9課：「漢数詞」について
5	第9課：月・日について
6	第10課：「固有数詞」について
7	第10課：時間について
8	韓国の映画&歌及び小テスト
9	第11課：「敬語」について
10	第11課：「敬語」のまとめ&第12課「否定形」について
11	第12課：「否定形」のまとめ
12	第13課：「過去形」について
13	第13課：「過去形」のまとめ
14	第14課：「～しましょう」について
15	総合応用及びまとめ。 16回：期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- *韓国語Ⅰを履修済みであることが望ましい。
- *初日は出席が必須条件です。出席しなければ登録が取り消される可能性があります。
- *指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、授業への参加姿勢(5%)、期末試験(50%)、小テスト・課題(20%)とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座・初級」(国書刊行会、2,100円 + 税)

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 宋 ミンジョン

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 人福1年（月・木4校時）、法律・地行・経済・環政・企シ・産情2年（月・木5校時）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰを履修した学生を対象に、聞いて話せる実用的な韓国語の習得を目指す。
韓国語の基礎を固めるのに必要な単語・文法・慣用句などを覚え、実際の場面で表現できるよう声に出して繰り返し練習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス(コース紹介、学習方法、心構え)と前期の復習
2	第7課 用言の丁寧な形①
3	第8課 用言の丁寧な形②
4	復習(7～8課)・1回目の小テスト(単語)
5	第9課 漢数詞(金額、年月日、電話番号)
6	第10課 固有数詞(年齢、個数、人数、時間)
7	韓国映画と歌
8	第11課 敬語(尊敬形)
9	第12課 用言の否定形
10	復習(9～12課)・2回目の小テスト(聞き取り)
11	第13課 過去形
12	第14課 勧誘表現
13	復習(13～14課)・課題提出締切日
14	3回目の小テスト(文法)・質問タイム
15	総復習(7～14課) 16週目：期末試験
16	

【履修上の注意事項】

- 1 指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 韓国語Ⅰを履修済みであること。
- 4 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。(減点対象になるので注意)
- 5 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験(50%) / 出席(25%) / 小テスト・課題(20%) / 授業態度(5%)

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著(国書刊行会、2,100円+税)

【参考文献】

辞書と参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 李 ヒョンジョン

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日文・社文1年（月・木3校時）、全学科(人間福祉優先)1年（月・木6校時）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰに続き、韓国語の基礎構造を着実に積んでいくことで、「聞いて話す」「読んで書く」という語学技能を自分のものにしていきます。また、文化の触れ合い学習にも力を入れることで、韓国の社会や文化を沖縄と比較してみましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：今学期の内容紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル・テスト
2	前学期の復習①：複合母音、名詞文
3	第7課：用言文の活用①
4	第8課：用言文の活用②
5	第9課：漢数詞の練習（電話番号／誕生日／日時を尋ねる）
6	漢数詞を用いて友達作り
7	第10課：固有数詞の練習（年齢／物の数／時間を尋ねる）
8	固有数詞を用いて「買い物場面」にチャレンジ
9	韓国映画を楽しもう！ / ムービーテレコを用いたセリフの練習
10	第11課：尊敬表現の練習、日本の尊敬表現との比較
11	第12課：用言文における否定表現の練習
12	第13課；過去表現の練習
13	用言文全体の活用練習と会話
14	第14課：勧誘表現「～しよう／～しましょう(か)」の練習
15	作文練習と総復習 16週目に期末試験およびフィードバックを行う。
16	

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(25%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上(8回)欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座（初級）』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅲ

担当教員 李 ヒョンジョン

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

この授業では、韓国語の中級レベルに進むための段階として、初級レベルにおける重要ポイントをもう一度抑えていきます。テキスト以外の話題も扱うことで、より韓国・韓国語を楽しんでいきましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル確認
2	初級・第15課 現在進行表現「～ている」
3	初級・第16課 可能・不可能の表現「～することができる／～することができない」
4	初級・第17課 希望・意志を表す表現「～したい」
5	初級・第18課 許諾「～してもいい」／許諾を求める表現「～してもいいですか」
6	初級・第19課 義務を表す表現「～しなければならない」
7	初級・第20課 推量および意志「～と思います／～するつもりです」
8	中間テスト、韓国映画を楽しもう！
9	不規則活用の練習
10	中級・第1課 動作の原因および様態「～して／～なので」
11	中級・第2課 形容詞・指定詞の連体形
12	中級・第3課 動詞・存在詞の連体形
13	中級・第4課 逆接「～であるが」、二つの動作「～しながら～する」
14	中級・第5課 連体形まとめ
15	総復習、会話テスト 16週目に期末試験およびフィードバックを行う。
16	

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(20%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(10%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1(8回)以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座(初級)』 国書刊行会 (2,100円＋税)
 木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座(中級)』 国書刊行会 (2,100円＋税)

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅳ

担当教員 李 ヒョンジョン

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

韓国語の中級学習者としてよりレベルの高いコミュニケーション能力を身につけるための文型および語彙選択のスキルアップを目指します。また、積極的に会話に参加することで、自分の意志を伝達し、相手の意見と調整できるように頑張りましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル確認
2	連体形と不規則活用の復習
3	第6課 経験の有無を表す表現「～したことがある(ない)」
4	第7課 理由を表す表現「～なので」、他の理由表現との比較
5	第8課 意志を表す表現「～しようと」
6	第9課 「～し始める」表現、「～するなり」表現
7	第10課 勧誘表現「～しましょうか」、他の勧誘表現との比較
8	中間テスト / 韓国映画を楽しもう！
9	第11課 願望を表す表現「～したらよいのだが」
10	第12課 「～時」表現の様々な形
11	第13課 間接話法「～するという」表現
12	第14課 「～するついでに」、「～すれば～するほど」表現
13	第15課 文末表現「～なんですよ」
14	地図、買い物、位置関係などの会話練習
15	会話テスト、総復習 16週目に期末試験およびフィードバックを行う。
16	

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(20%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(10%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1(8回)以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座(中級)』 国書刊行会 (2,100円+税)

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

スペイン語 I

担当教員 又吉 パトリシア

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 経済・環政・企シ・産情1年（月・木3校）、日文・英米・社文・人福2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

この講義では、主に初めてスペイン語を学ぶ生徒のために、役に立つ会話を習得することを目的とし、また歌やビデオ教材などを利用しスペイン語圏の世界を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目： 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介
- 2週目： スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)、数字0～10
- 3週目： 名詞の性と数、定冠詞(定冠詞、不定冠詞)
- 4週目： 主語人称代名詞、SER動詞の直接法現在、疑問文と否定文
- 5週目： 時刻と日付を表す(数字：11～、曜日、月)
- 6週目： ESTARとHAY動詞の直接法現在、場所を表す前置詞、
- 7週目： 形容詞の性と数、感嘆文
- 8週目： SER, ESTAR, HAY動詞の比較
- 9週目： -ar、-erと-ir動詞の直説法現在
- 10週目： 日常生活について話す（動詞の直説法現在）
- 11週目： 所有形容詞
- 12週目： 指示詞
- 13週目： 天気の表現、スペインの夏祭りの紹介
- 14週目： 期末テストのための復習
- 15週目： 前期のまとめ 自己紹介と家族の紹介について作文と発表
- 16週目： 期末テスト・回答

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください。積極的な授業への参加が望まれます。
- 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
- スペイン語IIを受講するにはスペイン語Iを合格していることを条件とする。

【評価方法】

最終評価は次の点の合計点とする

- 出席(10点) 授業総時間数の1/3(10回)以上欠席した場合は単位を与えない。
また、一回欠席すると出席点から2点、遅刻すると1点を減点する。
- テスト(60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う(筆記、口頭テスト)
- 宿題及び課題の提出(20点)

【テキスト】

スペイン語でスケッチ (Unas pinceladas del español)

著者：エウヘニオ デル プラド、斉藤華子、仲道慎治（第三書房、¥2,300）

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/「和西辞典」有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語 I

担当教員 赤嶺 恭子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米1年次（月・木3校時）、法律・地行・人福1年次（月・木4校時）

【授業のねらい】

スペイン語はスペインのみならず中南米やアフリカなど約四億人の人々によって話されている言語です。本講義では、文部科学省認定スペイン語技能検定6級の出題範囲である基礎文法の習得を目指します。さらにCDやDVDで、スペイン語の背景にある文化、社会、歴史、芸術に触れていきます。週一回、CALL教室を使用する予定です。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語の概要，アルファベット
- 2週目 スペイン語の発音，アクセントの位置，主格人称代名詞
- 3週目 名詞の性と数，定冠詞，不定冠詞
- 4週目 動詞serの直説法現在
- 5週目 動詞serの直説法現在，形容詞の性と数
- 6週目 動詞serのまとめ
- 7週目 小テスト②（動詞ser），動詞estarの直説法現在
- 8週目 動詞estarと動詞serの比較
- 9週目 動詞estarと動詞serの比較のまとめ
- 10週目 小テスト③（動詞estar），直説法現在の－ar動詞，基数
- 11週目 直説法現在の－ar動詞，疑問詞
- 12週目 直説法現在の－er動詞
- 13週目 直説法現在の－er動詞
- 14週目 直説法現在の－ir動詞
- 15週目 直説法現在－ar動詞，－er動詞，－ir動詞のまとめ。31回目にテスト(－ar, －er, －ir)のテストを行います。

【履修上の注意事項】

辞書は必携です。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

小テスト 45%
期末テスト 35%
授業への参加 20%

【テキスト】

高橋覚二・糸魚川美樹・福地恭子・リディア・サラ・カハ著『?ケ・テ・パサ?』2009年 朝日出版社 2,100円

【参考文献】

坂東省次著『文化と歴史で学ぶスペイン語』780円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・福地恭子著『スペイン語技能検定6級直前対策問題』200円

スペイン語 I

担当教員 小波津 フェルナンド

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日文・社文1年（月・木3校）、法律・地行・経済・環政・企シ・産情2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

3億5千万人ぐらいの人口、20ヶ国で公用語として話されているスペイン語を楽しく、明るく学ぶ授業にします。外国語に興味を持たせる科目です。スペイン語圏はこんなに面白くて、こんなに日本と違うなどと思わせる授業です。但し、せっかく学ぶのであれば、挨拶程度のレベルでは満足しないで下さい。自らの積極性は無ければ、楽しい授業で無くなってしまいますよ。

【授業の展開計画】

「授業のねらい」の続き～

スペイン語は、日本人にとって発音が易しいとも言えますが、文法的に難しい点は、動詞の活用です。そこで、本講義では、動詞の活用を直説法現在形に絞って学習し、口頭での受け答え練習や、時には、英語との比較対照を通して、スペイン語の文法的特徴に慣れてもらいます。また、ビデオ教材（街の風景、ジャキラ、フアネス）なども使用して、スペイン、ラテンアメリカの社会や文化に関する話題も導入します。

- 1 世界におけるスペイン語（話されている国、使用状況）
- 2 スペイン語の特徴（アルファベット・文字、発音）
- 3 挨拶とスペイン語基礎表現（hola, gracias, など） テーマ： スペインの広場
- 4 スペイン語の主語人称代名詞（自己紹介）
- 5 動詞serの直説法現在（出身地、主語の特徴、職業を言う）
- 6 動詞estarの直説法現在。Estarとser動詞の違いについて
- 7 名詞の性と数（casa, universidad, sen~or, amigo, など）。テーマ： スペインの大学
- 8 冠詞と形容詞のはたらき
- 9 動詞の直説法現在形（規則活用）：-ar、-erと-ir動詞（話す、食べる、生きる）
- 10 国・国民・言語 テーマ： 交通
- 11 表現を増やす：時刻、前置詞、など テーマ： 世界遺産の都市
- 12 動詞の直説法現在形（不規則活用）（want, can, know, など）
- 13 動詞G u s t a r（好かれる） テーマ： 映画とアニメ
- 14 スペイン語Iの復習①
- 15 スペイン語Iの復習②

【履修上の注意事項】

辞書は必携です。単語の意味は外国語学習には不可欠です。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度（積極性、努力、居眠りは注意されます）

【テキスト】

福嶋教隆 「動く！ スペイン語」 DVD+CD付（スペイン語名： Espan~ol dinamico）
ISBN978-4-255-55023-7

【参考文献】

『スペイン語ミニ辞典』（白水社）』 又は 『現代スペイン語辞典』（白水社）』 それとも 『西和中辞典』（小学館）』

スペイン語 I

担当教員 上地 リリア

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科 2年次以上対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

はじめてスペイン語を学ぶ学生のための入門クラス。講義ではテキスト・作成プリントを主としスペイン語の基礎を学び、単語、文法、及び簡単な会話ができるようになる。また、正しい発音、会話の練習の後に、オーラルチェックを行う。音楽や歌詞などを用いて興味を覚える。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduccion
2	Alfabeto
3	アクセントの位置
4	名詞の性・数
5	定冠詞・不定冠詞
6	形容詞
7	中間テスト
8	Ser 動詞
9	Estar 動詞
10	Ser と Estar動詞の違い
11	規則動詞 (1)
12	規則動詞 (2)
13	規則動詞 (3)
14	総復習
15	期末テスト
16	人称代名詞

【履修上の注意事項】

二重登録に注意してください。
授業の疑問点を質問して下さい。

【評価方法】

小テスト (3回X3 = 90点) を行う。
発音、会話のオーラルチェック (10点) を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

El Espanol (教室で販売)
授業の進行状況に添った練習問題のプリントも使用する。

【参考文献】

スペイン語Ⅱ

担当教員 又吉 パトリシア

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 経済・環政・企シ・産情1年（月・木3校）、日文・英米・社文・人福2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

スペイン語Ⅰの続きです。前期に単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にする。やはり動詞の活用が中心になりますが、今回は過去形や現在進行形、現在完了形など少し複雑な文法事項を学びます。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なスペイン語文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とする。スペイン語Ⅰと同様、音楽、ビデオ教材、などを利用し文法事項およびスペインと中南米の社会・文化事情・生活習慣を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目：前期で学んだ文法項目と表現の復習
- 2週目：直説法現在 語幹母音変化同詞（PODER, QUERER動詞など）
- 3週目：現在形の不規則動（TENER, IR動詞、など）
- 4週目：GUSTAR動詞、比較表現
- 5週目：助動詞のまとめと直説法現在の活用の復習
- 6週目：間接目的格人称代名詞
- 7週目：直接目的格人称代名詞
- 8週目：直説法現在1人称単数不規則動詞（HACER, CONOCER, SABER）
- 9週目：スペイン語圏の国々クリスマスとお正月行事、習慣の紹介
- 10週目：再帰動詞、一日の行為について語る
- 11週目：現在分詞、直説法現在進行形
- 12週目：過去分詞、直説法現在完了形
- 13週目：直接法点過去（規則動詞の活用）
- 14週目：前期と後期で学んだ文法項目と表現の復習とまとめ
- 15週目：期末テスト・回答
- 16週目：スペイン及びラテンアメリカの映画の紹介

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください。積極的な授業への参加が望まれます。
- 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
- スペイン語Ⅱを受講するにはスペイン語Ⅰを合格していることを条件とする。

【評価方法】

最終評価は次の点の合計点とする

- 出席(10点) 授業総時間数の1/3(10回)以上欠席した場合は単位を与えない。
また、一回欠席すると出席点から2点、遅刻すると1点を減点する。
- テスト(60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う(筆記、口頭テスト)
- 宿題及び課題の提出(20点)

【テキスト】

スペイン語でスケッチ (Unas pinceladas del español)

著者：エウヘニオ デル プラド、斉藤華子、仲道慎治（第三書房、¥2,300）

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/[和西辞典]有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語Ⅱ

担当教員 赤嶺 恭子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米1年次（月・木3校時）、法律・地行・人福1年次（月・木4校時）

【授業のねらい】

スペイン語Iで学んだ文法事項を反復練習しながら新しい事項を学んでいきます。また、スペイン語IとIIで習得した表現を用い、旅行や留学先などで簡単なコミュニケーションが行える力をつけていきます。この講義内容は文部科学省認定スペイン語技能検定5級の出題範囲です。検定試験は春と秋に実施されますので、履修後は積極的に受験して下さい。週1回、CALL教室を使用する予定です。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語Iの復習①, 時刻の表現
- 2週目 スペイン語Iの復習②, hayの用法, 動詞estarと動詞hayの比較
- 3週目 スペイン語Iの復習③, 所有格形容詞
- 4週目 直説法現在の不規則動詞①ir
- 5週目 直説法現在の不規則動詞②querer
- 6週目 直説法現在の不規則動詞③poder
- 7週目 直説法現在の不規則動詞④tener
- 8週目 直説法現在の不規則動詞のまとめ
- 9週目 筆記テスト（直説法現在の不規則動詞）, 目的格人称代名詞
- 10週目 gustar型動詞
- 11週目 現在分詞, 現在分詞の用法
- 12週目 再帰動詞
- 13週目 直説法完了過去の規則動詞と不規則動詞, 直説法不完了過去と規則動詞と不規則動詞, 直説法完了過去と直説法不完了過去の比較
- 14週目 過去分詞, 現在完了形, 命令形
- 15週目 未来形, スペイン語IIのまとめ。 31回目は口頭テストをします。

【履修上の注意事項】

スペイン語Iを履修済みであることが望ましい。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

中間テスト（筆記） 40%
期末テスト（口頭） 40%
授業への参加 20%

【テキスト】

高橋覚二・糸魚川美樹・福地恭子・リディア・サラ・カハ著『?ケ・テ・パサ?』2009年 朝日出版社 2,100円

【参考文献】

高橋覚二著『テーブル式基礎スペイン語便覧』2300円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・安田圭史著『スペイン語技能検定5級直前対策問題』2000円

スペイン語Ⅱ

担当教員 小波津 フェルナンド

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

備考 日文・社文1年（月・木3校）、法律・地行・経済・環政・企シ・産情2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

基礎スペイン語Ⅰの続きです。表現と動詞の活用が中心になりますが、本講義では過去形や進行形、現在完了形など少し複雑な文法事項を学びます。基礎スペイン語Ⅰと同様、適宜に視覚教材などを使用します。言語の学習と並行して、スペイン語圏世界の社会や文化事情に関するビデオ映像（ドキュメンタリー、映画）なども可能な限り鑑賞します。最終目標はスペイン語の特徴を理解する、基礎表現を言える、さらに色々を学びたい！

【授業の展開計画】

- 1 前期の表現と文法の復習 (Hola!, ¿Como estan?, Tanto tiempo!)
- 2 所有詞、指示詞 (Este es mi amigo)
- 3 比較級・最上級、副詞 (bigger, biggest, など) テーマ: サッカー
- 4 表現力を増やす: 点過去形 (規則動詞) (~した)
- 5 点過去形 (不規則動詞) テーマ: 住まい
- 6 線過去形 (規則動詞) (~していた) 過去の継続的できごとを表す
- 7 線過去形 (不規則動詞) テーマ: スペインの美術館
- 8 文の連結 (接続詞 que)、さらに基数を増やします
- 9 現在分詞 (-ing) テーマ: 居酒屋とタパス
- 10 天候について (季節、月)
- 11 不定語・否定語 (something, nothing, など.)
- 12 過去分詞・現在完了 テーマ: 誕生日と聖人の日
- 13 再起動詞 (立つ、起きる)
- 14 スペイン語Ⅱの復習①
- 15 スペイン語Ⅱの復習②

【履修上の注意事項】

辞書は必携です。単語の意味は外国語学習には不可欠です。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度（積極性、努力、居眠りは注意されます）

【テキスト】

福嶋教隆 「動く！ スペイン語」 DVD+CD付 (スペイン語名: Espan~ol dinámico)
ISBN978-4-255-55023-7

【参考文献】

『スペイン語ミニ辞典』（白水社）』 又は 『現代スペイン語辞典』（白水社）』 それとも 『西和中辞典』（小学館）』

スペイン語Ⅱ

担当教員 上地 リリア

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科2年次以上対象

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上で残りの基礎を前期と同様に学び、更に教養を広める。講義ではテキスト、作成プリント、LL教材を使用する。また、ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。特に、スペイン語を修得し、スペイン語圏（スペイン、中南米）の文化・習慣を知ることによって、相互に理解しあえるようにしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スペイン語Ⅰの復習
2	点過去規則動詞 (1)
3	点過去規則動詞 (2)
4	時刻・曜日
5	天候
6	現在進行形 (1)
7	現在進行形 (2)
8	復習
9	再帰動詞
10	比較表現
11	受け身表現
12	未来形
13	命令文
14	総復習
15	後学期評価
16	

【履修上の注意事項】

前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

小テスト（3回×3＝90点）を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

El Espanol（前期と同じ）
授業の進行状況に添った練習問題のプリントを使用する。

【参考文献】

スペイン語Ⅲ

担当教員 上地 リリア

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

スペイン語 I・II の基礎を復習した後に、ラテン・アメリカの事情を題材にした易しい読み物をテキストとして見聞を拡充し、音楽やスペイン語検定試験の問題などを用いて関心を高める。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スペイン語 I・II の復習
2	線過去形 (1)
3	線過去形 (2)
4	点過去形と線過去形の違い
5	未来不規則動詞 (1)
6	未来不規則動詞 (2)
7	関係代名詞
8	復習
9	過去未来形
10	無人称表現
11	無意志表現
12	所有形容詞
13	スペイン語検定試験 6 級対策
14	総復習・まとめ
15	前学期評価
16	

【履修上の注意事項】

二重登録のないように注意してください。
スペイン語 I、II を習得済みの学生。

【評価方法】

小テスト (2回×2 = 80点) を行う。
発音、会話のオーラルチェック (20点) を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

授業の進行状況によって作成したプリントを使用する。

【参考文献】

作成したプリントを使用します。

スペイン語Ⅳ

担当教員 上地 リリア

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科対象

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上でテキストの残りを、前期と同様に学び、更に教養を深める。また、ビデオを用いて、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣を紹介することによって、記憶に残る教養を身に付けたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スペイン語Ⅲの復習
2	接続法 (1)
3	接続法 (2)
4	接続法 (3)
5	接続法過去
6	接続法現在完了
7	接続法過去完了
8	復習 (1)
9	条件文 (1)
10	条件文 (2)
11	命令形不規則動詞
12	復習 (2)
13	スペイン語検定試験 5 級対策
14	まとめ
15	後学期評価
16	

【履修上の注意事項】

前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
 スペイン語 I、II、IIIを取得済みの学生。
 継続は力なり。

【評価方法】

小テスト (2回×2 = 80点) を行う。
 発音、会話のオーラルチェック (20点) を行う。
 出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
 授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

授業の進行状況によって作成したプリントを使用する。

【参考文献】

作成したプリントを使用します。

中国語 I

担当教員 兼本 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科(人間福祉優先)1年次

【授業のねらい】

中国において共通語と言われる「普通語 (pu tong hua)」を習得するクラスです。中国語は声調言語と言われ発音における声調 (トーン) が重要です。正確な発音を習得するために、教科書の音読練習を繰り返し行います。基本文型、自己紹介、挨拶はしっかりと流暢に口から出るようになることを目標とします。教科書には中国の生活習慣や中国人のものの考え方を紹介しています。しかし、国土も広く、めざましい発展を遂げている中国なので教科書と異なる部分もありますが、その点は授業で適宜紹介します。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス (学習のしかた、学内外での中国語学習の手引き)
2. 挨拶と教室用語、数詞と量詞 (助数詞)
3. 教科書に沿って授業を行います。(以下の文型を中心に学びます)
 - 名詞叙述文
 - 形容詞叙述文
 - 疑問文：疑問代名詞・選択疑問
 - 否定のしかた

【履修上の注意事項】

指定学科があります。登録前に確認してください。大学入学以前に中国語を学習した者は申し出てください。人前での発表に支障が有る者は相談に来てください。

【評価方法】

発音の習得を確認するために、毎課、口頭の小テストがあります。100%小テストの積み上げが成績になりますが、減点方式です。減点対象；遅刻、欠席、携帯電話、私語。

【テキスト】

【参考文献】

教材『北京の街角で』本学CALL Web上にある練習問題集

中国語 I

担当教員 島袋 直樹

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律1年（月・木4校時）、英米・産情1年（月・木3校時）

【授業のねらい】

このクラスは、はじめて中国語を学ぶ学生を対象とし、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習を行うが、前期では特に発音と声調（イントネーション）の習得に重点をおく。初学者でも正確な美しい発音ができるように一つずつ積み重ねながら指導していく。テキスト以外にも、インターネットなどを使って中国文化への関心と理解を深めていくようにする。

【授業の展開計画】

中国語では発音と声調（イントネーション）は非常に重要なので授業開始後2、3週目くらいまでは主に発音と声調の練習をする。

その後はテキストに沿って講義を進めていくが、各課で学ぶ主な内容は以下の通りである。

第1課・・・動詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。

第2課・・・動詞述語文など。

第3課・・・形容詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）、動詞「有」など。

第4課・・・動詞「在」など。

第5課・・・名詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。

第6課・・・名詞述語文、動詞「有」、連動文など。

各課で発音のチェックや会話練習を行う。

最後の授業で期末テストを行う。

【履修上の注意事項】

発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席、授業態度（積極的参加、努力）、各種テスト・チェックなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

『中国語ポイント42』本間史・孟広学（白帝社）
適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語 I

担当教員 車 莉莉

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 企シ1年（月・木3校時）、日文・英米・人福2年（月・木5校時）

【授業のねらい】

初心者ための入門講座です。語学学習を強く意識せずに、癖の無い発音が出来るのが目的です。講義の目標は、1. 正しく発音する、2. (中国語による教室用語や簡単な指示など) 聞きなれて、速く反応する、3. 日中、中日辞書を頻繁に使い、単語調べに慣れることです。

*週に一回、コール教室を使用予定。

【授業の展開計画】

前期講義は中国語の第一歩として、発音を中心に据え、発音編から基礎編の第4課前後まで進む予定です。日本語と違って、中国語の発音はアクセントもまた、四声と言う独特なもので、中国語を学ぶには発音を習得することが決定的重要です。ですから、前期、発音編で、単語、フレーズ、自己紹介などの言い方の練習を通して、意識しないでも、正確に発音出来ることを目指します。

第一課～第三、四課は本教材の基礎編です。リズム感の良い簡単な文を繰り返し読んで、音としての中国語になじんで来ると言う次第です。

【履修上の注意事項】

言葉に強い関心と興味を持ち、勉強に積極的に取り組む学生の登録を望みます。練習や小テストを設け（一部はeラーニングで実施）、その得点を学期末テストに加算します、出席も点数取得に不可欠です。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

各種練習、小テスト、出席、期末テストを総合して評価します。

【テキスト】

『縁日はとてもにぎやか』一郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語 I

担当教員 朱 虹

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 社文 全学年対象

【授業のねらい】

まず、中国語普通話の発音記号を修得し、それから教科書を中心に、中国語簡体字や文法項目を学習します。最終的に、600～700語の中国語単語と40項目の文法事項を修得した上、自己紹介や基本的な会話をマスターすることを目標とします。授業はパソコン教室でのCALLシステムを応用した授業と一般教室での授業を交替した形で行います。従来の語学学習の内容に中国語漢字の入力訓練やウェブ教材の内容を取り入れ、単語の読み書き訓練を強化し、会話の修得と共に、学習内容の幅を広げ、中国の社会や文化への理解を深めるねらいです。

【授業の展開計画】

- 1 中国語とは ①中国の概況 地理、歴史、民族、言語 ②簡体字について ③発音記号について
- 2 中国語の発音 I ①声調 ②単母音 ③入力練習
- 3 中国語の発音 II ①複合母音 ②子音 ③発音練習
- 4 中国語の発音 III ①鼻母音 ②軽声 ③声調の変化 ④入力訓練
- 5 中国語の発音 IV 発音編総復習
- 6 第一課 ①人称代名詞 ②“是”の文 ③疑問文 ④名前の表現 ⑤スキット 1
- 7 第一課 復習 チャレンジ 1 ウェブ学習
- 8 第二課 ①動詞述語文 ②指示代名詞 ③疑問詞疑問文 ④“的”の使い方 ⑤スキット 2
- 9 第二課 復習 チャレンジ 2 ウェブ学習
- 10 第三課 ①形容詞述語文 ②所有を表す“有” ③反復疑問文 ④副詞“也”“都” ⑤スキット 3
- 11 第三課 復習 チャレンジ 3 ウェブ学習
- 12 第四課 ①場所代名詞 ②存在を表す“在” ③動詞の重ね型 ④省略疑問文 ⑤スキット 4
- 13 第四課 復習 チャレンジ 4 ウェブ学習
- 14 第五課 ①数詞 ②量詞 ③疑問詞の学習と復習 ④語気助詞の学習 ⑤スキット 5
- 15 第五課 復習 チャレンジ 5 ウェブ学習
- 16 総復習

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

主に中間テストや期末試験を中心に成績評価を行います。課題の提出物や出席状況および学習態度をも加味し、総合的に評価します。

【テキスト】

「中国語ポイント42」（別冊 自習単語帳付き）本間史・孟広学 著 白水社

【参考文献】

「中国語学習ハンドブック」相原茂編著 大修館書店
辞書「中日辞典」小学館もしくは電子辞書

中国語 I

担当教員 金田 知子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化1年（月・木3校時）・人間福祉1年（月・木4校時）

【授業のねらい】

本授業では、発音を中心に、基本会話を繰り返し、音読練習をすることによって、自然に中国語を身につけるように取り組む。テキストに沿って、基本的な文法項目を理解させ、簡単な会話や自己紹介などができ、また、短い文章の作文ができることを目標とする。初めて中国語を学ぶ人でも楽しめるレッスンであるように心がけ、講義を進めながら、中国人のものの考え方、生活習慣、21世紀で激変している中国の様々な事情を紹介する。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス（中国・中国語・簡体字について）
2. DVDで中国を知る①
3. テキスト第1課～第8課
4. 総合復習・期末テスト *習熟度により多少変更あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1		17	
2		18	
3		19	
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16			

【履修上の注意事項】

- ①中国語を学ぶ第一歩は発音である。発音を正確にできるためには、声を出すことが要求される。
 - ②毎課ごとに小テストがある。
 - ③遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
 - ④原則として追加試験、再試験は実施しない。
- 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

成績は期末テストに60%、小テストに20%および出席状況に20%の割合で評価を行う。

【テキスト】

『すぐ話せる中国語』 胡金定／吐山明月 著 朝日出版社

【参考文献】

『北京の街角で』（本校CALL教室）

中国語 I

担当教員 田添 暢彦

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 地行1年（月・木4校時）、経済・環政1年（月・木3校時）

【授業のねらい】

中国語の音声に慣れ、ピンイン表記を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入と動機付け。中国語の概要、中国語を学ぶメリットとは？
2	ピンイン表記と発音（1）あいさつ表現
3	ピンイン表記と発音（2）人称代名詞 指示代名詞 「是」をつかった表現 疑問詞
4	ピンイン表記と発音（3）「也」「的」「是」をつかった表現
5	ピンイン表記と発音の総まとめ 前半の総復習
6	数字 時刻の言い方
7	一般動詞文 時と場所を表す指示語
8	前置詞「在」 動詞「有」
9	量詞 場所を表す指示語
10	復習と質問タイム
11	「了」変化と完了
12	年月日・曜日の言い方
13	年齢の言い方、たずねかた
14	形容詞述語文 様態補語
15	前期のまとめ テスト前の質問タイム
16	

【履修上の注意事項】

語学の成功は復習が鍵です。

【評価方法】

学期末の試験および授業での取り組みを総合的に評価します。3分の1以上欠席した人は学期末試験を受ける資格を失いますので注意して下さい。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

木村英樹（1996）『中国語はじめの一步』ちくま新書

中国語 I

担当教員 一張 維 真

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

備考 法律・地行・経済・環政・企シ・産情 2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 自己紹介、中国語についての説明
2. 中国語の声調「四声」の練習、発音チェック
3. 子音を加えて四声の練習、単母音の発音、発音チェック
4. 有気音・無気音の区別と練習、発音チェック
5. 有気音・無気音の練習、鼻音nとngの区別と練習、発音チェック
6. 卷舌音の練習、鼻音の発音チェック
7. 卷舌音の練習と発音チェック
8. 複母音の練習と発音チェック
9. 各自の名前の中国語の発音
10. テキストを使って、発音の総合復習
11. テキストを使って、発音の総合復習
12. 第一課に入る、発音の復習とチェック
13. 第一課の内容説明、発音練習とチェック
14. 第二課の内容説明、発音練習とチェック
15. 第二課の読み練習、発音チェック
16. 筆記テスト、第三課の内容説明
17. DVDで中国を知る
18. 第三課の読み練習、会話文の書き練習
19. 二人で会話のやりとり練習、第四課の内容説明
20. 第四課の読み練習と発音チェック
21. 中国語の歌を教える、第五課の内容説明と発音チェック
22. 第五課の読み練習と発音チェック
23. 第六課の内容説明と発音チェック
24. 第六課の読み練習と発音チェック
25. 第七課の内容説明と発音チェック
26. 第七課の読み練習と発音チェック
27. 作文練習
28. 作文練習
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。特に中国語は発音が難しく、さらに四声という声調があります。発音と声調は教師の細かい指導を受けなければマスターできません。簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

毎課の終了時に理解度チェックを行います。評価はそうしたチェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

「すぐ話せる中国語」胡金定/ 吐山明月 著 朝日出版社

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語Ⅱ

担当教員 兼本 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科（人間福祉優先）1年次

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

中国において共通語と言われる「普通語（pu tong hua）」を習得するクラスです。中国語は声調言語と言われる発音における声調（トーン）が重要です。正確な発音を習得するために、教科書の音読練習を繰り返し行います。基本文型、自己紹介、挨拶はしっかりと流暢に口から出るようになることを目標とします。教科書には中国の生活習慣や中国人のものの考え方を紹介しています。しかし、国土も広く、めざましい発展を遂げている中国なので教科書と異なる部分もありますが、その点は授業で適宜紹介します。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス（学習のしかた、学内外での中国語学習の手引き）
2. 挨拶と教室用語、数詞と量詞（助数詞）
3. 教科書に沿って授業を行います。（以下の文型を中心に学びます）
 - 名詞叙述文
 - 形容詞叙述文
 - 疑問文：疑問代名詞・選択疑問文
 - 否定のしかた

【履修上の注意事項】

指定学科があります。登録前に確認してください。
大学入学以前に中国語を学習した者は申し出てください。
人前での発表に支障が有る者は相談に来てください。

【評価方法】

発音の習得を確認するために、毎課、口頭の小テストがあります。
小テスト（含LL）の積み上げが成績になります。
減点対象；遅刻、欠席、携帯電話、私語。

【テキスト】

Web版『北京の街角』：CALL教材

【参考文献】

自作教材：本学CALL上の問題集

中国語Ⅱ

担当教員 島袋 直樹

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考 法律1年（月・木4校時）、英米・産情1年（月・木3校時）

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

このクラスは、中国語Ⅰを履修した者あるいは同等以上の能力を有する者を対象に、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。正確な発音と声調の定着を目指すとともに、「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習事項を進めていく。テキスト以外にも、インターネットなどを使って中国文化への関心と理解を深めていくようにする。

【授業の展開計画】

まず前期で学習した事項を復習し、その後はテキストに沿って講義を進めていくが、各課で学ぶ主な内容は以下の通りである。

第6課 動詞「有」、連動文、時刻や月日・曜日の言い方

第7課 助動詞（「要」、「想」）、前置詞、完了を表す「了」

第8課 助動詞（「能」、「会」、「可以」）、経験を表す言い方、時間の長さの表現

第9課 前置詞、動作や持続の表現

第10課 結果補語、選択疑問文など

第11課 方向補語、「把」構文、比較の表現

第12課 可能補語、「是～的」を使った文など

各課で発音のチェックや会話練習を行う。

最後の授業で期末テストを行う。

【履修上の注意事項】

中国語Ⅱは中国語Ⅰを履修した者あるいは同等以上の能力を有することが登録の条件となっている。履修を希望する者は登録前に担当教員に確認すること。

発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席、授業態度（積極的参加、努力）、各種テスト・チェックなどを総合的に判断して評価する。適宜プリントを配布する。

【テキスト】

『中国語ポイント42』本間史・孟広学（白帝社）
適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語Ⅱ

担当教員 車 莉莉

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 企シ1年（月・木3校時）、日文・英米・人福2年（月・木5校時）

【授業のねらい】

中国語Ⅰに続く初級講座です。本文の中に出てくる単語で発音の基本を練習しながら強化、その発音を口や耳にならしてしまい、単語や文を見て意味を解釈するのではなく、発音を聞いて、意味が分かるのと、中国語文型、文法をしっかりと身につけ、それを生活の場面で使うのが中国語Ⅱのねらいです。

【授業の展開計画】

後期講座は、教本の第三か第四課から始まります。初級レベルです。学習が少し進んだ段階でも発音をおろそかにするとせっかく学んだものを台無しにしてしまうことがあるので、後期に入っても、本文に出てくる単語やフレーズなどを繰り返し口にのせる練習も少なくありません。後期になると中国語独特の文法事項が多くなり、特に語順が重要になってきます。日本語と比較しながら、中国語の基本文法を理解し、パターンをしっかり覚えながら、応用に目を向けます。
*週一回、ラボ教室の利用を予定します。

【履修上の注意事項】

中国語Ⅰを履修した学生で、言葉に強い関心と興味を持ち、勉強に積極的に取り組む学生の登録を望みます。練習、小テスト（一部はeラーニング実施）を設け、その得点を学期末テストに加算します。また、出席には点数取得に不可欠です。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

練習、小テスト、授業態度、出席、期末テストを総合して評価します。

【テキスト】

『縁日はとてにぎやか』－郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語Ⅱ

担当教員 朱 虹

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 社文 全学年対象

【授業のねらい】

まず、中国語普通話の発音記号を修得し、それから教科書を中心に、中国語簡体字や文法項目を学習します。最終的に、600～700語の中国語単語と40項目の文法事項を修得した上、自己紹介や基本的な会話をマスターすることを目標とします。授業はパソコン教室でのCALLシステムを応用した授業と一般教室での授業を交替した形で行います。従来の語学学習の内容に中国語漢字の入力訓練やウェブ教材の内容を取り入れ、単語の読み書き訓練を強化し、会話の修得と共に、学習内容の幅を広げ、中国の社会や文化への理解を深めるねらいです。

【授業の展開計画】

- 1 第六課 ①存在を表す“有” ②連動文 ③月日・曜日 ④時刻の表現 ⑤スキット6
- 2 第六課 復習 チャレンジ6 ウェブ学習
- 3 第七課 ①助動詞“要”“想” ②介詞“在” ③完了表現 ④スキット7
- 4 第七課 復習 チャレンジ7 ウェブ学習
- 5 第八課 ①助動詞“能、会、可以” ②経験を表す“過” ③時間量の表現 ④スキット8
- 6 第八課 復習 チャレンジ8 ウェブ学習
- 7 第九課 ①介詞“給、对” ②動作の進行 ③動作・状態の持続 ④スキット9
- 8 第九課 復習 チャレンジ9 ウェブ学習
- 9 第十課 ①結果補語 ②動作の状態や程度の表現 ③選択疑問文 ④スキット10
- 10 第十課 復習 チャレンジ10 ウェブ学習
- 11 第十一課 ①方向補語 ②“把”の構文 ③比較の表現 ④スキット11
- 12 第十一課 復習 チャレンジ11 ウェブ学習
- 13 第十二課 ①可能補語 ②二重目的語 ③“是～的”の表現 ④スキット12
- 14 第十二課 復習 チャレンジ12 ウェブ学習
- 15 期末試験
- 16 総復習

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

主に中間テストや期末試験を中心に成績評価を行います。課題の提出物や出席状況および学習態度をも加味し、総合的に評価します。

【テキスト】

「中国語ポイント42」（別冊 自習単語帳付き）本間史・孟広学 著 白水社

【参考文献】

「中国語学習ハンドブック」相原茂編著 大修館書店
辞書「中日辞典」小学館もしくは電子辞書

中国語Ⅱ

担当教員 金田 知子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化1年（月・木3校時）・人間福祉1年（月・木4校時）

【授業のねらい】

本授業では、発音を中心に、基本会話を繰り返し、音読練習をすることによって、自然に中国語を身につけるように取り組む。テキストに沿って、基本的な文法項目を理解させ、簡単な会話や自己紹介などができ、また、短い文章の作文ができることを目標とする。初めて中国語を学ぶ人でも楽しめるレッスンであるように心がけ、講義を進めながら、中国人のものの考え方、生活習慣、21世紀で激変している中国の様々な事情を紹介する。

【授業の展開計画】

1. 前期の復習・DVDで中国を知る②
2. テキスト第9課～テキスト第14課
3. 春節・中国の唄のご紹介
4. 総合復習
5. 期末テスト *習熟度により多少変更あり。

【履修上の注意事項】

- ①中国語を学ぶ第一歩は発音である。発音を正確にできるためには、声を出すことが要求される。
 - ②毎課ごとに小テストがある。
 - ③遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
 - ④原則として追試験、再試験は実施しない。
- 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

成績は期末試験に60%、小テストに20%および出席状況に20%の割合で評価を行う。

【テキスト】

『すぐ話せる中国語』 胡金定／吐山明月 著 朝日出版社

【参考文献】

『北京の街角で』（本校CALL教室）

中国語Ⅱ

担当教員 田添 暢彦

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 地行1年(月・木4校時)、経済・環政1年(月・木3校時)

【授業のねらい】

前期に習得した事項を確認しながら、中国語を読み、書き、話し、聞く能力の向上をはかる。現代中国事情にも可能な限り触れ、最終的に受講者がそれぞれの専攻に関連する事柄を辞書を引きながら独力で調べられるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の復習
2	動詞「在」助動詞「要」
3	助動詞「想」 動詞「喜歡」を使った表現
4	「去」「来」を使った表現 前置詞「給」
5	「還是」 動詞のかさね形
6	動作の進行 動詞・助動詞「会」
7	助動詞「能」 「できる」の表し方
8	お金の単位 一点儿
9	比較の表現 経験を表す「過」
10	状態の持続 使役系「讓」／「叫」
11	動作の回数・時間の長さ・分量
12	結果補語 受け身「被」 方向補語
13	「把」の構文 「是 的」の構文
14	前置詞「從」 目的語を文頭に置く強調表現
15	後期のまとめ テスト前の質問タイム
16	

【履修上の注意事項】

復習をしっかりと行って下さい。

【評価方法】

学期末の試験に加え、平生の授業への取り組みを総合的に評価します

【テキスト】

前期に使用したテキストを継続して使用します

【参考文献】

木村英樹(1996)『中国語はじめの一步』ちくま新書

中国語Ⅱ

担当教員 張 維 真

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行・経済・環政・企シ・産情 2年（火・金2校時）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には、会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 自己紹介、発音の復習
2. 発音の復習とチェック
3. 中国語の歌を紹介し、覚えてもらう
4. 第八課の内容説明と発音チェック
5. 第八課の読み練習と発音チェック
6. 第一課～第八課の内容を活用して、二人で会話文を作る
7. 会話文の発表、第九課の内容説明
8. 第九課の読み練習と発音チェック
9. 第十課の内容説明と発音チェック
10. DVDで中国を知る
11. 第十課の読み練習と発音チェック
12. 第十一課の内容説明と発音チェック
13. 第十一課の読み練習と発音チェック
14. 第九課～十一課の復習と発音チェック
15. チームで中国語の劇を作る
16. 劇の発表と講評
17. 総合復習
18. 筆記テスト、第十二課に入る
19. 第十二課の内容説明と発音チェック
20. 筆記テスト、第十二課の読み練習と発音チェック
21. 第十三課の内容説明と発音チェック
22. 第十三課の読み練習と発音チェック
23. 第十四課の内容説明と発音チェック
24. 第十四課の読み練習と発音チェック
25. 第十二課～十四課の復習
26. 作文練習
27. 作文練習
28. 期末テスト前の総合復習
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。中国語Ⅱでも、学生の発音と声調がしっかりとできているのか確認しながら、授業をおこないます。発音や声調をマスターできていない学生に対しては、その矯正を行います。また、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

毎課の終了時に理解度チェックを行います。評価はそうしたチェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

「すぐ話せる中国語」胡金定 / 吐山明月 著 朝日出版社

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語Ⅲ

担当教員 兼本 敏

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

1. 中国語Ⅰ・Ⅱで学習した事項を再確認し定着を計ります。
2. 既習事項の実践的応用を目標とします。人前で話すことに慣れてもらいます。中国語での質疑応答に慣れてください。
3. 作文としてスピーチコンテスト（学内外）用の原稿作成をします。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 既習事項の確認
3. 教科書に沿って授業（中国語Ⅲ：第4課まで。中国語Ⅳ：第8課まで）各課に4コマ（4講義時間）を当てる。各課、中国語での質疑応答がある。
4. 「スピーチコンテスト」原稿作成を通して作文能力を養成する。

【履修上の注意事項】

登録条件：中国語Ⅰ・Ⅱ既修、或いは同等の力があることを教員に確認した者。欠席は減点。携帯電話は切る（減点）。

【評価方法】

すべての評価は、減点方式です。

LL教材・テスト→60%
(スピーチコンテスト用) 作文→40%

【テキスト】

【参考文献】

教科書およびテストはLL教材として登録されています。

中国語Ⅳ

担当教員 兼本 敏

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

1. 中国語Ⅰ・Ⅱで学習した事項を再確認し定着を計ります。
2. 既習事項の実践的応用を目標とします。人前で話すことに慣れてもらいます。中国語での質疑応答に慣れてください。
3. 作文としてスピーチコンテスト（学内外）用の原稿作成をします。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 既習事項の確認
3. 教科書に沿って授業（中国語Ⅲ：第4課まで。中国語Ⅳ：第8課まで）各課に4コマ（4講義時間）を当てる。各課、中国語での質疑応答がある。
4. 「スピーチコンテスト」原稿作成を通して作文能力を養成する。

【履修上の注意事項】

登録条件：中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ既修、或いは同等の力があることを教員に確認した者。
携帯電話は切る（減点対象）。

【評価方法】

各課の質疑応答（含むLL教材） 60%
スピーチコンテスト用 作文 40%

【テキスト】

【参考文献】

LL教材として「e-Learning」に登録されています。
各問題を指定された要領で回答してください。

ドイツ語 I

担当教員 漆谷克秀・坂口民子・東江貴子・クラウスフランケ

配当年次 1年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行1年(漆谷), 日文・社文1年(坂口), その他1年(クラウス), 全学2年(東江)

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。テキストの目指すところは、自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることです。「聞く」「話す」という自己表現を念頭においた口頭による練習が中心になります。声を出して練習しますので、間違っても発音してしまえだと思って、声を出してください。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、発音
 2週： 発音 導入 あいさつ
 3週： Lektion 1 Kennenlernen(人と知り合う) あいさつをする 自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻) 人称代名詞(1) 動詞の現在人称変化：規則動詞
 4週： Lektion 1 自分と他者を紹介する 自己紹介のEメールを書く 疑問詞のある疑問文 Ja/Neinで答える疑問文 語順(1)
 5週： Lektion 2 Freizeit(自由時間) 自由時間の過ごし方について話す 人称代名詞(2)
 6週： Lektion 2 年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く 動詞の現在人称変化：不規則動詞
 7週： Lektion 2 つづりを言う 職業を言う 動詞の現在人称変化：不規則動詞
 8週： Lektion 3 Tagesablauf(一日の行動) 時間表現を使う 日常の行動について表現する 分離動詞
 9週： Lektion 3 一週間の予定を述べる 語順(2) 中間試験
 10週： Lektion 3 電話で約束をとりつける 話法の助動詞：k?nnen wollen m?ssen m?chten
 11週： Lektion 4 Essen und Trinken(食事) 食習慣について話す 名詞の性と格 不定冠詞 定冠詞
 12週： Lektion 4 レストランで注文する・支払う 否定冠詞 主格と目的格 無冠詞
 13週： Lektion 5 Wohnen(住まい) 家、部屋、台所の様子を説明する 不定冠詞 定冠詞 与格
 14週： Lektion 5 家について意見を述べる 所有冠詞(1)：主格・目的格・与格 名詞の複数形
 15週： Lektion 5 どこに何があるかを表現する どこに何を置くかを表現する 場所を表す前置詞＋与格・目的格
 16週： 期末試験

【履修上の注意事項】

『独和辞典』を持って出席すること。
 発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。
 登録上限数を上回った場合、担当教員の間で調整します。
 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席と課題、試験で評価する。

【テキスト】

『CD付き スタート!』(三修社)

【参考文献】

ドイツ語Ⅱ

担当教員 漆谷克秀・坂口民子・東江貴子・クラウスフランケ

配当年次 1年

開講時期 後期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行1年(漆谷), 日文・社文1年(坂口), その他1年(クラウス), 全学2年(東江)

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion6 Einkaufen(買い物) どこで何を買い物ができるかを話す 序数
 2週： Lektion6 商品について助言を求める 広告を理解する dies-と指示代名詞：主格・目的格
 3週： Lektion6 依頼する・答える(1) 営業時間を理解する 命令形(du, ihr) 人称代名詞：目的格、
 4週： Lektion7 Familie(家族) 家族を紹介する 前後左右の位置関係を表現する 所有冠詞(2)
 5週： Lektion7 誕生日に招待する プレゼントについて相談する 人称代名詞：主格・目的格・与格一ト
 6週： Lektion7 招待に対する返事のEメールを書く 支持表現を理解する 命令形(Sie)
 7週： Lektion8 Reisen(旅行) 休暇先とそこでの活動について計画する ホテルの宿泊リストに記入する
 場所を示す前置詞
 8週： Lektion8 ホテルの利用案内を理解する 依頼する・答える(2) 場所を表す前置詞 話法の助動詞
 duerfen
 9週： Lektion8 観光局に問合せのEメールを書く 話法の助動詞のまとめ 中間試験
 10週： Lektion9 In der Stadt(街角で) 過去の行動について話す 道を尋ねる 現在完了 過去分詞
 11週： Lektion9 窓口で切符を買う 駅のインフォメーションを理解する 現在完了 過去分詞
 12週： Lektion9 旅先から友人にEメールを書く 現在完了 過去分詞、
 13週： Lektion10 Uebungssatz Start Deutsch 1 (SD1 模擬試験) 筆記試験
 14週： Lektion10 筆記試験
 15週： Lektion10 口答試験 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

『独和辞典』を持って出席すること。

発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。

登録上限数を上回った場合、担当教員の間で調整します。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席と課題、試験で評価する。

【テキスト】

『スタート!』(三修社)

【参考文献】

ドイツ語Ⅲ

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 全学科対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

初級ドイツ語を履修した学生を対象とします。最初にドイツ語Ⅰ・Ⅱで教えられていない文法事項を学習します。そのあと、週二回の校時がありますので、ひとつの校時はドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習もかねて『ハウルの動く城』の講読にあてます。もうひとつの校時は“Drei Minuten bitte!”というビデオ教材で会話練習を中心にしてドイツ語のリズムや発音を繰り返して練習します。ヨーロッパの文化歴史などに関するビデオを鑑賞する機会も持つ予定です。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、 形容詞の格変化
 2週： 人称代名詞、 再帰表現(再帰動詞、再帰代名詞)
 3週： 熟語動詞、ZU不定詞、受動態
 4週： 関係文(関係代名詞、関係副詞)、比較表現
 5週： 接続法(第1式、第2式)
 6週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Meine Familie
 7週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Meine Familie, ビデオ鑑賞
 8週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Die Beethovenstra?
 9週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Die Beethovenstra?
 10週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Wie bitte?
 11週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “Drei Minuten bitte!” Wie bitte?、ビデオ鑑賞
 12週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “Drei Minuten bitte!” Urlaub,
 13週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “Drei Minuten bitte!” Urlaub,
 14週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “Drei Minuten bitte!” Im Supermarkt
 15週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “Drei Minuten bitte!” Im Supermarkt, ビデオ鑑賞、小テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

Hayao Misazaki : “Das wandelnde Schloss” Teil 1— 4, (Calsen Verlag)
 “Drei Minuten bitte!” (プリントを配布します)

【参考文献】

ドイツ語Ⅳ

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

ドイツ語Ⅲを受けて授業を行います。講読ではドイツ語をただ訳すというだけではなく、原文の日本語がどのようなものか考えながら訳すようにします。発音にあたっては、感情が表現できるように努力していきます。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、“Drei Minuten bitte!“ Er ist krank
 2週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 2, “Drei Minuten bitte!“ Im Restaurant
 3週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 2, “Drei Minuten bitte!“ Im Zug
 4週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Kleider kaufen, ビデオ鑑賞
 5週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Am Telefon
 6週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Im Hotel、ビデオ鑑賞
 7週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Das Auto
 8週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Der Geburtstag、ビデオ鑑賞
 9週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 3, “Drei Minuten bitte!“ Der Besuch
 10週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4, “Drei Minuten bitte!“ Backen, ビデオ鑑賞
 11週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4, “Drei Minuten bitte!“ Musik
 12週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4, “Drei Minuten bitte!“ Verliebt、ビデオ鑑賞
 13週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4, “Drei Minuten bitte!“ Die Verabredung
 14週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4, “Drei Minuten bitte!“ Die Handmatte
 15週：“Das wandelnde Schloss“ Teil 4、小テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

Hayao Misazaki：“Sprited Away” Teil 1 5, (Calsen Verlag)
 “Simsalabim” (プリントを配布します)

【参考文献】

フランス語 I

担当教員 大下 祥枝

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米言語文化学科1年次対象

【授業のねらい】

フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」という4つの力を、初級の段階から、総合的に養成する試みとして編纂されたテキストを使用します。CDやビデオを使用しながら、反復練習に重点をおいた授業となります。フランス語の背景にある文化や芸術に関するビデオの鑑賞時間も入れる予定です。I・IIの授業でフランス語に興味を持ち、さらにIII・IVで初級文法事項の全てを終えようとする意欲が持続することを目標にしています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	フランス語について
2	綴り字の読み方の基本
3	綴り字の読み方の基本
4	自己紹介
5	不定冠詞と定冠詞
6	名詞の性と数
7	主語人称代名詞
8	動詞の活用形
9	肯定文の作り方
10	疑問文の作り方
11	否定文の作り方
12	国籍などの表現
13	複数形の作り方
14	年齢などの表現
15	前期の復習
16	

【履修上の注意事項】

『仏和辞典』を毎時間クラスに持参して、単語の検索に慣れるようにすること。CDやテープを繰り返し聞き、正確なフランス語の発音ができるように努めてください。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格をなくします。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

辞典：多田 道太郎 編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語 I

担当教員 宮里 厚子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行・人福 1年次対象

【授業のねらい】

フランス語に慣れ親しみ、あいさつや自己紹介など基本的な会話の習得を目指す。また伝統・習慣・現代事情などの紹介を通して、フランスやフランス語圏の言語学習だけでなく、その文化を理解することもねらいとする。

【授業の展開計画】

- 第 1 週 オリエンテーション / フランス語の基礎知識
- 第 2 週 発音のルールについて
- 第 3 週 あいさつをする
- 第 4 週 「これは何ですか？」
- 第 5 週 不定冠詞と定冠詞
- 第 6 週 親しい人とのあいさつ
- 第 7 週 職業・国籍をいう
- 第 8 週 定冠詞の縮約
- 第 9 週 疑問文
- 第 10 週 形容詞の使い方
- 第 11 週 人を描写する
- 第 12 週 否定文
- 第 13 週 冠詞のまとめ
- 第 14 週 自己紹介・人物描写のまとめ
- 第 15 週 まとめと期末試験

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Amicalement bis (アミカルマン・ビス)』 澤田直之 他 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

各種辞書

フランス語 I

担当教員 上江洲 律子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日文・社文1年次対象（月・木3校時）、全学科2年次対象（月・木5校時）

【授業のねらい】

初めて学ぶ「言語」としてのフランス語、その音に慣れることから始め、現実的な状況に即した表現を通して、文の仕組みと発音を学びながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とします。そのため、筆記形式の問題練習と同時に、CDやDVD教材を使った会話の聞き取りや、その暗唱にも取り組みます。また、フランス的なものに触れ、知る機会として、生活習慣や行事の他、音楽や映画、文学等の文化紹介も行います。

【授業の展開計画】

フランス語の a b c から、日常の挨拶、自分自身や自分以外の人について話すための表現（自己紹介及び他者紹介）を学びます。

※テキストの第0課～3課対応

1～2 週目（1～4 回目）：ガイドランス・フランス語の a b c

3～4 週目（5～8 回目）：挨拶

5～6 週目（9～12 回目）：自己紹介

7～8 週目（13～16回目）：人物紹介（1）

9～10 週目（17～20回目）：人物紹介（2）

11～12週目（21～24回目）：郵便局での表現

13～14週目（25～28回目）：服装や食事に関する表現

15 週目（29～30回目）：まとめと試験 31回目：試験のフィードバック

【履修上の注意事項】

言葉は、強い興味と意志を持ち、繰り返し練習することでしか習得できないものです。授業では、全体練習やペア練習、ペアでの発表を行う等、積極的な取り組みを要望しますが、授業外でも各自練習を積み重ねる心構えで臨んで下さい。フランス語を実際に身につけることを目指しましょう。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業目標の達成度を確認するために、筆記形式による文法試験（「読む」「書く」力の確認）と、暗唱形式による発音試験（「聞く」「話す」力の確認）を実施します。また、語学において、授業に参加し、その中で練習を繰り返すことは必要不可欠なことです。出席を推進し、かつ、その努力を評価するために、出席状況を得点化し、前述の二つの試験結果に加え、総合的に評価します。

●計算式＝文法試験の得点（35％）＋発音試験の平均得点（35％）＋出席の得点（30％）

【テキスト】

●澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマン』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

●『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社（CD付）

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社（①入門②初級③文法、各CD付）

森本英夫、三野博司著『新・リュミエールフランス文法参考書ー』、駿河台出版社（別売りCD）

フランス語 I

担当教員 金城 豪

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 経済・環政・企シ・産情・1年次対象

【授業のねらい】

フランス語の初心者を対象とします。アルファベットと発音の基礎から始め、当言語を理解するために必要な文法事項を解説していくと共に、反復練習を行います。「読む」「書く」「聞く」「話す」という4つの力を総合的に養成することを目標とします。フランスへのより深い理解と、興味を高めるために、フランスやフランス語圏の文化・芸術・音楽の紹介、映画鑑賞等を予定しています。

【授業の展開計画】

テキストの第0課～第3課に対応

- 第1週 フランスとフランス語に親しむ
- 第2週 文字と発音
- 第3週 文字と発音
- 第4週 挨拶
- 第5週 自己紹介
- 第6週 主語人称代名詞
- 第7週 名詞の性と数・不定冠詞
- 第8週 動詞の活用I(etre)
- 第9週 数字
- 第10週 動詞の活用II (avoir)
- 第11週 形容詞の女性形と複数形・定冠詞
- 第12週 人称代名詞の強勢形・否定文
- 第13週 動詞の活用III (-er動詞)
- 第14週 指示形容詞・所有形容詞
- 第15週 復習と試験

【履修上の注意事項】

仏和辞典を持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマンーフランス語・フランス文化への誘いー』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語 I

担当教員 西森 和広

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考 法律・地行・経済・環政・企シ・産情・2年次以上対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

フランス語に初めて接する学生を対象にした、初歩のフランス語クラスである。アルファベットと発音の基礎から始めて、日常の基本的な会話表現の習得と、基本的な文法事項の理解を得るための応用問題などを各单元ごとに繰り返してゆく。毎回同じ繰り返しのようなことで退屈かもしれないが、語学力を身につけるには結局は反復練習しかないということを忘れずに根気よく学習して行く。

また、随時映像等を利用し、フランス文化への関心を高める刺激とする。

【授業の展開計画】

テキストに従い、以下の項目で進めるが、クラスの理解の程度により進度に変更もある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	形容詞の性数、人称代名詞の強勢形
2	0 課：アルファベ、日本語のフランス語	18	練習問題
3	綴り字、発音の基本	19	練習問題（続き）
4	発音の基本（続き）、挨拶表現	20	2課の2：対話「人物紹介」
5	数字の練習、発音練習とまとめ	21	否定文、数字（2）
6	1課の1：対話「パン屋」	22	形容詞
7	対話（続き）、冠詞	23	練習問題
8	名詞の性と数、練習問題	24	練習問題（続き）
9	練習問題（続き）	25	3課の1：対話「郵便局」
10	1課の2：対話「街角での出会い」	26	指示形容詞、数字（3）
11	対話（続き）、主語人称代名詞	27	第1群規則動詞
12	存在の動詞、前置詞と定冠詞	28	練習問題
13	練習問題	29	練習問題（続き）
14	練習問題（続き）	30	まとめと復習；31回目に期末小テスト
15	2課の1：対話「電話」	31	
16	所有の動詞の活用と用法		

【履修上の注意事項】

指定学科の2年生以上を対象とする。

【評価方法】

宿題、課題(25%)と各課ごとの小テスト(50%)と期末小テスト(25%)による。

【テキスト】

『アミカルマン』（改訂版・CD付き）澤田直之ほか著（駿河台出版社）

【参考文献】

講義時に適宜指示する。

フランス語Ⅱ

担当教員 大下 祥枝

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 英米1年次対象

【授業のねらい】

フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」という4つの力を、初級の段階から、総合的に養成する試みとして編纂されたテキストを使用します。CDやビデオを使用しながら、反復練習に重点をおいた授業となります。フランス語の背景にある文化や芸術に関するビデオの鑑賞時間も入れる予定です。Ⅰ・Ⅱの授業でフランス語に興味を持ち、さらにⅢ・Ⅳで初級文法事項の全てを終えようとする意欲が持続することを目標にしています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第一群規則動詞の活用形
2	住所、値段の表現
3	指示形容詞
4	第二群規則動詞の活用形
5	疑問詞のまとめ
6	所有形容詞
7	服装、文具に関する表現
8	部分冠詞
9	allerの活用形
10	venirの活用形
11	近い未来と近い過去の表現
12	命令法
13	時間の表現
14	地図を読み解く
15	後期の復習
16	

【履修上の注意事項】

『仏和辞典』を毎時間クラスに持参して、単語の検索に慣れるようにすること。CDやテープを繰り返し聞き、正確なフランス語の発音ができるように努めてください。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格をなくします。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

辞典：多田 道太郎 編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語Ⅱ

担当教員 宮里 厚子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行・人福 1年次対象

【授業のねらい】

より多くの動詞や疑問文の形を学習することにより、さまざまな状況に対応する会話を身につけることを目的とする。日常生活だけでなく、旅行にも使えるような表現等も学習する。また前期に引き続き、フランスやフランス語圏の文化の理解を深めることも目指す。

【授業の展開計画】

- 第 1 週 オリエンテーション / フランス語Ⅰの復習
- 第 2 週 第1群規則動詞の活用
- 第 3 週 「いつ?」「どこ?」
- 第 4 週 買い物をする
- 第 5 週 第2群規則動詞と所有形容詞
- 第 6 週 所有形容詞を使った会話
- 第 7 週 部分冠詞と冠詞のまとめ
- 第 8 週 疑問文のまとめ
- 第 9 週 天気をいう
- 第10週 動詞「行く」「来る」「する・作る」
- 第11週 近接未来と近接過去
- 第12週 命令法
- 第13週 時間をいう
- 第14週 道案内をする
- 第15週 まとめと期末試験

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Amicalement bis (アミカルマン・ビス)』 澤田直之 他 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

各種辞書

フランス語Ⅱ

担当教員 上江洲 律子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日文・社文1年次対象（月・木3校時）、全学科2年次対象（月・木5校時）

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語を「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とし、日常生活に見られる会話表現を通して、文の仕組みの把握や、発音の習得に取り組みます。また、抜粋された文章の読み取りや作文、映画や音楽を使った書き取り等を行い、フランス文化に触れながらフランス語の実践力を高め、フランス語検定試験の受験や、中級クラス(フランス語Ⅲ・Ⅳ)への進級の橋渡しとなる授業を目指します。

【授業の展開計画】

前期で学んだことを踏まえ、タクシーやレストラン、スポーツクラブでの会話を通して、時や場所を示す表現を始め、料理やスポーツに関する語彙や日常の基本的な行動に関わる表現を学びます。

※テキストの第4課～6課対応

1～2 週目 (1～4 回目) : ガイダンス・前期の復習

3～4 週目 (5～8 回目) : 場所や天候の表現

5～6 週目 (9～12 回目) : 道順や時間の表現

7～8 週目 (13～16回目) : 比較表現 (1)

9～10 週目 (17～20回目) : 比較表現 (2)

11～12週目 (21～24回目) : 一週間の行動に関する表現

13～14週目 (25～28回目) : 事務手続きに関する表現

15 週目 (29～30回目) : まとめと試験 31回目 : 試験のフィードバック

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること、または、その実力を有することが履修の必要条件となります。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

前期同様、筆記形式による文法試験(「読む」「書く」力の確認)と、暗唱形式による発音試験(「聞く」「話す」力の確認)の結果に、出席得点を加味し、総合的に評価します。

●計算式＝文法試験の得点(35%)＋発音試験の平均得点(35%)＋出席の得点(30%)

【テキスト】

- 澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマン』、駿河台出版社(改訂版・CD付)
- 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社(CD付)

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社(①入門②初級③文法、各CD付)
森本英夫、三野博司著『新・リュミエールフランス文法参考書一』、駿河台出版社(別売りCD)

フランス語Ⅱ

担当教員 金城 豪

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 経済・環政・企シ・産情・1年次対象

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語の基礎を学んでいきます。フランス語Ⅰと同じテキストを使用します。ビデオやCDなどの視聴覚教材を用いながら、日常会話やよく使われる表現を繰り返し練習します。フランス語Ⅲ、Ⅳに進むための確実な文法力を身につけることを目標とします。また文部科学省認定実用フランス語検定試験4～5級取得を目指します。

【授業の展開計画】

テキストの第4課～第6課に対応

- 第1週 前期の復習
- 第2週 部分冠詞・疑問文の作り方
- 第3週 天候・季節の表現（非人称構文）
- 第4週 動詞の活用(-ir動詞)
- 第5週 動詞aller と venir の用法
- 第6週 前置詞deとa の用法
- 第7週 比較の表現
- 第8週 補語人称代名詞
- 第9週 可能・欲求・義務の表現
- 第10週 疑問形容詞
- 第11週 依頼・命令の表現
- 第12週 代名動詞の用法
- 第13週 空間の表現（前置詞）
- 第14週 食事の表現（語彙・文化紹介）
- 第15週 復習と試験

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること。または同等の力を有していること。

仏和辞典を毎回持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマンーフランス語・フランス文化への誘いー』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語Ⅱ

担当教員 西森 和広

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 法律・地行・経済・環政・企シ・産情・2年次以上対象

【授業のねらい】

前期開講の「フランス語Ⅰ」の継続科目で、同じテキストを使って、初歩のフランス語の力を付けてゆく。引き続き、発音と基本的な文型を身に付けてゆくために、日常会話などで用いられる表現の反復練習、応用問題を解くといった訓練を積み重ねてゆく。

【授業の展開計画】

テキストの項目に順じて以下の予定で進行する予定だが、受講生の理解度により進度に差が出る場合がある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、前期の復習	17	比較級
2	前期の復習の続き	18	練習問題
3	3課の2：対話「買い物」	19	5課の2：対話「レストラン(続き)」
4	動詞「行く」「来る」「する」	20	人称代名詞(間接目的補語)
5	近い未来と過去の表現、否人称表現	21	最上級
6	まとめ、練習問題	22	練習問題
7	4課の1：対話「タクシー」	23	6課の1：テキスト「スポーツ」
8	移動の動詞	24	代名動詞
9	近未来、近過去、天気表現	25	代名動詞(続き)
10	練習問題	26	練習問題
11	4課の2：対話「タクシー(続き)」	27	6課の2：テキスト「スポーツ(続き)」
12	道案内、命令法	28	可能、意志、義務の助動詞
13	時間の表現、序数	29	疑問形容詞
14	練習問題	30	練習問題；31回目に期末テスト
15	5課の1：対話「レストラン」	31	
16	人称代名詞(直接目的補語)		

【履修上の注意事項】

指定学科の2年生以上対象。「フランス語Ⅰ」を受講していること。

【評価方法】

課題と宿題(25%)、各課ごとの小テスト(50%)、期末小テスト(25%)による。

【テキスト】

『アミカルマン』(改訂版・CD付き) 澤田直之ほか著 (駿河台出版社)

【参考文献】

講義時に適宜指示する。

フランス語Ⅲ

担当教員 大下 祥枝

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

フランス語I・IIのテキストを引き続き用いて、初級文法の主要事項を説明します。発音、会話、作文の力がつくような工夫をこらした授業を進める予定です。フランス文化に関連したビデオを鑑賞する時間も入れます。

【授業の展開計画】

- 1週 I・IIで学習した内容の復習
- 2週 人称代名詞（直接目的補語）
- 3週 人称代名詞（間接目的補語）
- 4週 比較級を使った表現
- 5週 最上級を使った表現
- 6週 代名動詞
- 7週 疑問形容詞
- 8週 非人称表現
- 9週 食事や食器類の名称
- 10週 複合過去
- 11週 複合過去
- 12週 昨日したことを語る
- 13週 勧誘する表現
- 14週 否定の表現のまとめ
- 15週 復習と試験

【履修上の注意事項】

授業時間数は限られていますので、個人でCD・ビデオ・ラジオやテレビ講座などを活用して、フランス語の会話や作文ができるように努めてください。フランスの社会・文化・芸術などに関する情報を集めて、クラスで発表しましょう。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格を失います。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

田島 宏 編『コレクション・フランス語⑤読む』（白水社）
田島 宏 編『コレクション・フランス語⑥聞く』（白水社）

フランス語Ⅳ

担当教員 大下 祥枝

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 全学科対象

【授業のねらい】

フランス語Ⅰ・Ⅱのテキストを引き続き用いて、初級文法の主要事項を説明します。発音、会話、作文の力がつくような工夫をこらした授業を進める予定です。「実用フランス語検定試験」4級・3級受験の直前対策講座も行いません。

【授業の展開計画】

- 1週 半過去
- 2週 複合過去と半過去を使った表現
- 3週 関係代名詞
- 4週 強調構文
- 5週 仏検4級・3級対策講座
- 6週 受動態と能動態
- 7週 単純未来
- 8週 メディアと観光に関する用語
- 9週 ジェロンディフと現在分詞
- 10週 感嘆文の作り方
- 11週 中性代名詞
- 12週 条件法現在
- 13週 接続法現在
- 14週 日常会話の練習
- 15週 復習と試験

【履修上の注意事項】

授業時間数は限られていますので、個人でCD・ビデオ・ラジオやテレビ講座などを活用して、フランス語の会話や作文ができるように努めてください。「実用フランス語検定試験」を受けて、実力を確かめましょう。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格を失います。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

- 田島 宏 編『コレクション・フランス語⑤読む』（白水社）
- 田島 宏 編『コレクション・フランス語⑥聞く』（白水社）